平成28（2016）年
5月1日
第180号 毎月発行
編集　公民館だより編集室
発行　西東京市公民館
毎月第４月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

今月号の内容

2面…地域課題を考える講座
女性のための講座
多文化共生講座
3面…田無公民館まつり

柳沢公民館　柳沢1-15-1　☎042・464・8211　kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館　南町5-6-11　☎042・461・1170　tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館　芝久保町5-4-48　☎042・461・9825　shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館　谷戸町1-17-2　☎042・421・3855　yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館　ひばりが丘2-3-4　☎042・424・3011　hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館　東町3-14-30　☎042・421・1125　ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

手話でハートをつなぐ ～ともに生きる～

手話は少し知っていたけれど、ここに来てよくわかるようになりました。言葉で表せないことを手話で伝えられるようになりました。言いにくいことも、手話なら言えることもあります。

【補聴器使用の小学４年生 万莉子（まりこ）さん】

「しゅわにゃん」の活動は楽しい。子どもたちが耳の聞こえない人と交流し、自然に理解していくことは良いことであり、将来活躍してくれることを期待しています。

【７か国語の手話の達人！ ろう者の高桐尊史（たかぎりたけし）さん】

だれでも人の助けがあれば嬉しい。障がいのある人だからサポートするのではなく、困っている人を手助けする気持ちが大切だと思います。

【親がろう者の 中学１年生 雄真（ゆうま）くん】

触手話（しょくしゅわ）：耳と目に障がいのある谷口さんと、手で触れながら手話をし、会話します。

「一緒に歌いましょう」と呼びかけられていると感じた」。これは、ひばりが丘フェスティバルで初めて「手話歌（しゅわうた）」を聴いた方の感想です。編集室では、あふれる笑顔とともに、この手話による歌を発表した「しゅわクラブしゅわにゃん」を取材しました。

「もっとにこやかに、動作をはっきりと」。平日の午後、ひばりが丘公民館の一室に代表の藤澤紀子（ふじさわのりこ）さんの声が響きます。

「しゅわクラブしゅわにゃん」（以下「しゅわにゃん」）は中原小学校施設開放運営協議会が実施した手話講座がきっかけで結成されたサークルです。

現在、聴覚に障がいのある子ども8人とその保護者、指導を含めサポートしているろう者を含めた約30人のメンバーが週2回活動しています。

♥歌を「目」で「聴く」

聞こえない人のコミュニケーション手段は手話以外にもいくつかあること、聞こえない人の文化があることを学んだ上で手話の学習を始めます。

会では、学習のひとつとして「手話歌」を取り入れています。「手話歌」をする時に大事なことは、歌詞の意味を十分に理解して手話に変換することです。表情なく、手先だけで表す「手話歌」を見るのは、聞こえない人にとって苦痛です。手話は聞こえない人にとって大事な言語であり、「手話歌」は、歌詞を手話に変換するだけではなく、「見て」楽しめる工夫が必要です。

♥明日をひらく出会い

活動に参加する福井（ふくい）さん親子。2人の子どもは聴覚に障がいがあります。手話講座に親子で参加した縁で入会しました。受講当時、福井さんは西東京市に引っ越してきたばかりで知り合いもなく、幼い子どもを抱えて不安でいっぱいでした。でも、活動に参加することで友達がたくさんでき、楽しく毎日を過ごせるようになりました。

小川（おがわ）さんは夫婦ともに聴覚に障がいがあります。聴覚に障がいのない3人の子どもたちが大きくなるにつれ、コミュニケーションに悩むようになりました。手話に興味を持たなかった5歳の長女は、「しゅわにゃん」を見学したとき、年の近い子どもたちが楽しそうに手話を使う様子を見て、自分から手話を学びたいと言ってきました。「子どもたちが手話を使ってくれることで、親子のコミュニケーションが深まるのがとても嬉しい」と小川さんは思っています。

♥人と人とのふれあいの先に

メンバーは、1年に1度、全国手話検定試験に挑戦してきました。しかし、それはそれぞれの目標づくりにすぎず、子どもたちが、細くても長く、聞こえない人とかかわり続けることを藤澤さんは期待しています。

私たちは言語を用いて他者とコミュニケーションをとります。手話は、口から発せられる言葉や紙に書かれた文字と同じひとつの言語です。「しゅわにゃん」では、聴覚に障がいのある人とない人が一緒にこの共通の言語を学びながら、個性ある一人一人として向きあい、自然に交流しています。障がいのある人とない人の間に隔たりがない活動は、ともに生きる社会を求める確かな実践であると、取材を通して感じました。

わが街をもっと知りたくて パワフル女子だっ。「ままペンシル」

魅力ある人やお店、場所などを紹介する情報フリーペーパー『tanappo西東京』。企画・制作しているのは、「西東京市の良いところを伝えたい」と現場に出向き、「ママ」の目で情報発信するライターチーム「ままペンシル」です。

30代から50代のメンバーはみな、子育て真っ最中です。出会いは3年前に市内のNPO法人が開催したママ記者養成講座。その後に発行されたフリーペーパーの制作チームの中の有志が結成しました。

活動を始めるとき、専業主婦だった4人が最初にしたのは、取材に必要な名刺を作ること。「遠くに置いてきたもの」を取り戻したようだったといいます。

時間がない中、味方は家族の理解と協力、そしてパソコンです。家事が落ち着いた夜にインターネットで会議をすることも。

『tanappo西東京』編集会議風景：左奥から時計回りに、代表の三好希世乃（みよしきよの）さん、廣田亜希子（ひろたあきこ）さん、徳丸由利子（とくまるゆりこ）さん、左手前は第３号のデザインを担当した中村晋也（なかむらしんや）さん

紙面の編集やホームページの制作などにもパソコンを駆使しています。一方、強力な相棒は自転車。市内を走り回る日々は想像したこともなかったそうです。

フリーペーパーの発行だけでなく、イベントも行う彼女たちの原動力は、子どもたちのふるさとになる西東京市の魅力を知りたい・知らせたいという思い。地域の様々な方たちと出会える喜びと、読者からの反応を励みに、今日も自転車を走らせています。

写真で見る いまむかし

田無庁舎の敷地に田無中学校（現田無第一中学校）があったころ

昭和22年、新学制の中学校として創立された田無中学校は、昭和25年に南町五丁目6番（現在の田無庁舎の敷地）に移転。昭和42年、市制施行とともに「田無第一中学校」と改名しました。昭和47年11月、火災で教室等が焼失。焼け跡に建てられたプレハブ校舎で授業が行われ、昭和48年に現在の場所（南町六丁目9番37号）に移転しました。

昭和37（1962）年ごろの田無中学校
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

現在の南町五丁目6番
田無庁舎側から見た中央図書館